

# ピムコ 短期戦略プラス・オープン (為替リスク軽減型)

追加型投信／内外／債券

作成対象期間：2018年4月21日～2019年4月22日

第 2 期 決算日：2019年4月22日

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
当ファンドは、円建て外国投資信託への投資を通じて、主として世界（新興国を含みます。）の幅広い種類の公社債等およびそれらの派生商品等を高位に組み入れ、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざす運用を行います。原則として投資する外国投資信託において、当該外国投資信託の純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図ります。ここに運用状況をご報告申し上げます。  
当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

### 第 2 期末 (2019年4月22日)

基準価額	9,993 円
純資産総額	391 百万円
騰落率	+0.2 %
分配金合計 <sup>(*)</sup>	0 円

(\*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufig.jp/>

[ファンド検索] に  
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで  
閲覧およびダウンロード

**MUFG** 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号  
ホームページ <https://www.am.mufig.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用フリーダイヤル  **0120-151034**

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

# 運用経過

第2期：2018年4月21日～2019年4月22日

## ▶ 当期中の基準価額等の推移について

### 基準価額等の推移



第2期首	9,978円
第2期末	9,993円
既払分配金	0円
騰落率	0.2%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

### 基準価額の動き

基準価額は期首に比べ0.2%の上昇となりました。

## ▶ 基準価額の主な変動要因

### 上昇要因

米国金利が低下したこと。  
債券利子収入を享受したこと。  
米国非政府系モーゲージ証券が上昇したこと。

### 下落要因

為替取引によるコスト。

2018年4月21日～2019年4月22日

1 万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	91	0.920	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
( 投 信 会 社 )	(67)	(0.672)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(21)	(0.215)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	(3)	(0.032)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.003	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	(0)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
( そ の 他 )	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	91	0.923	

期中の平均基準価額は、9,946円です。

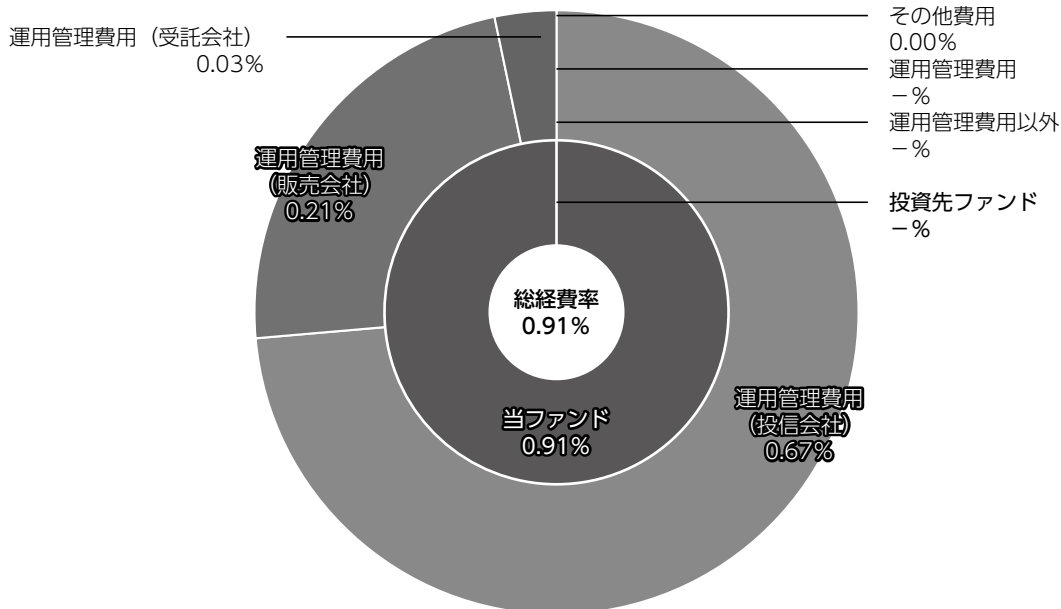
- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

- (注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## (参考情報)

### ■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.91%**です。



総経費率 (①+②+③)	(%)	0.91
①当ファンドの費用の比率	(%)	0.91
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	(%)	-
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	(%)	-

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

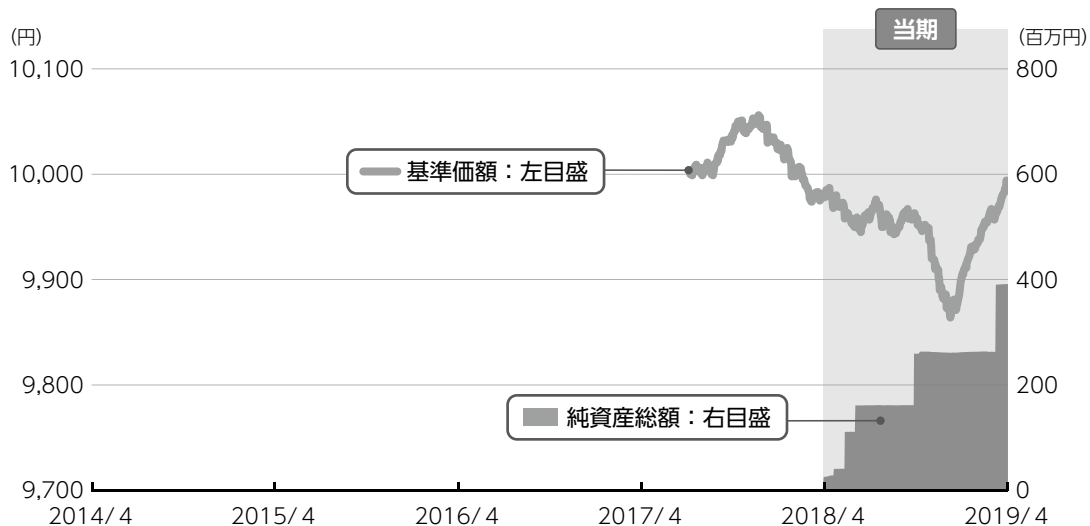
(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2014年4月22日～2019年4月22日

最近5年間の基準価額等の推移について



最近5年間の年間騰落率

					2018/4/20 期初	2019/4/22 決算日
基準価額	(円)	-	-	-	9,978	9,993
期間分配金合計 (税込み)	(円)	-	-	-	-	0
基準価額騰落率	(%)	-	-	-	-	0.2
純資産総額	(百万円)	-	-	-	25	391

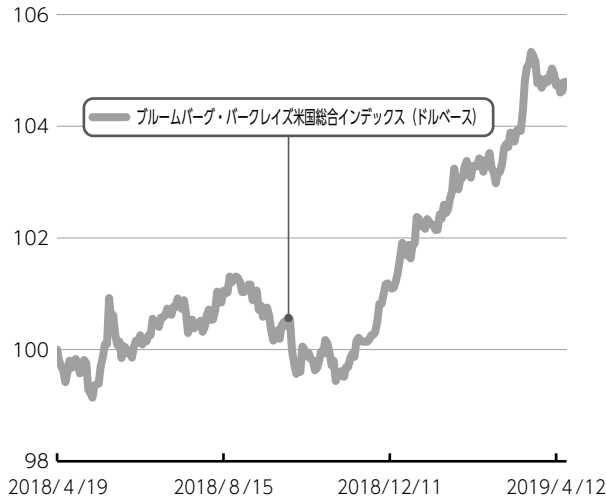
※騰落率および期間分配金合計については、年間の値を表示しており、期間が1年に達していない場合には表示していません。

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

第2期：2018年4月21日～2019年4月22日

▶ 投資環境について

債券市況の推移 (期首を100として指数化)



▶ 債券市況

期首から2018年11月上旬にかけては、堅調と考えられる米国景気等を背景に米連邦準備制度理事会 (F R B) が政策金利を引き上げ、追加的な利上げにも前向きな姿勢を示していたことなどから米国金利が上昇し、米国債券市況は軟調となりました。

11月上旬から期末にかけては、米中貿易摩擦等を受けて世界経済の減速懸念が高まったことやF R Bが当面政策金利を据え置く姿勢を示したこと等を背景に米国金利が低下し、米国債券市況は上昇しました。

期を通じて見ると、米国債券市況は上昇しました。

(注) 現地日付ベースで記載しております。

(注) ブルームバーグ・バークレイズ米国総合インデックスとは、ブルームバーグが算出する米ドル建ての投資適格債券の値動きを表す指数です。

ブルームバーグ (BLOOMBERG) は、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピー (Bloomberg Finance L.P.) の商標およびサービスマークです。バークレイズ (BARCLAYS) は、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ピーエルシー (Barclays Bank Plc) の商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社 (以下「ブルームバーグ」と総称します。) またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックス (BLOOMBERG BARCLAYS INDICES) に対する一切の独占的権利を有しています。

## ▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

### ▶ ピムコ 短期戦略プラス・オープン (為替リスク軽減型)

円建て外国投資信託であるピムコ ショートターム ストラテジー - クラスJ (JPY) およびピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (JPY) の投資信託証券への投資を通じて、主として世界 (新興国を含みます。) の幅広い種類の公社債等およびそれらの派生商品等を高位に組み入れ、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざす運用を行いました。なお、「PIMCOショートターム戦略」への投資配分を70%、「PIMCOインカム戦略」への投資配分を30%とすることを基本とします。

### ▶ ピムコ ショートターム ストラテジー - クラスJ (JPY)

基準価額は期首に比べ0.3%の上昇となりました。

純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図りました。円・米ドル為替市況の変動が基準価額に与える影響は限定的となりました。

#### 金利戦略

全体の金利リスクを低位に維持しました。

前記のような投資を行った結果、金利変化が基準価額に与える影響は相対的に限定的となりました。

#### セクター配分戦略

財務内容の健全性などを慎重に考慮し、リスク対比で投資妙味があると考えられる投資適格社債を中心に投資しています。また、米住宅市況回復の恩恵を受けやすいと考えられる米国非政府系モーゲージ証券にも投資しています。新興国債券については、財政状況や対外収支等のファンダメンタルズを精査し、投資対象国を慎重に選別しながら投資しています。

前記のような投資を行った結果、投資していた米国非政府系モーゲージ証券が上昇したこと等がファンドのパフォーマンスにプラスとなりました。

### ▶ ピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (JPY)

基準価額は期首に比べ3.0% (分配金再投資ベース) の上昇となりました。

純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図りました。円・米ドル為替市況の変動が基準価額に与える影響は限定的となりました。



### 金利戦略

全体の金利リスク量は抑制しつつ、市場環境に応じて機動的に調整しました。米国においては、他の先進国対比で金利リスク量を相対的に高めとする一方、グローバルな金利上昇局面において金利が上昇すると考えられる日本や欧州連合（EU）離脱に関する議論を受けて金利が大きく低下している英国において金利リスクは抑えています。

前記のような投資を行った結果、米国金利が低下したことが、ファンドのパフォーマンスにプラスに寄与しました。

### セクター配分戦略

米政府関連債や米政府系住宅ローン担保証券といったリスクオフ時に底堅い値動きが期待出来る債券を組み入れることで、ポートフォリオの安定性を維持しました。一方、米国の景気拡大を捉える資産として、米非政府系住宅ローン担保証券やハイイールド社債への投資を継続しています。また、メキシコやロシア等の新興国債券への投資についても継続しています。前記のような投資を行った結果、投資していた米非政府系住宅ローン担保証券等が上昇したこと等がファンドのパフォーマンスにプラスに寄与しました。

## ▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

## ▶ 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

### 分配原資の内訳

(単位：円、1万円当たり、税込み)

項目	第2期
	2018年4月21日～2019年4月22日
当期分配金 (対基準価額比率)	- (-%)
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	120

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

### ▶ ピムコ 短期戦略プラス・オープン (為替リスク軽減型)

#### 今後の運用方針

円建て外国投資信託への投資を通じて、主として世界（新興国を含みます。）の幅広い種類の公社債等およびそれらの派生商品等を高位に組み入れた運用を行います。なお、「PIMCOショートターム戦略」への投資配分を70%、「PIMCOインカム戦略」への投資配分を30%とすることを基本とします。

## ▶ ピムコ ショートターム ストラテジー - クラスJ（JPY）

### 運用環境の見通し

2019年の世界経済は、過去数年間実施されてきた金融緩和縮小の影響が当面継続すると見られること、米国の財政政策の影響が徐々に剥落すること、中国をはじめとする各国の経済成長鈍化などを背景に、2018年以前と比較すると経済成長は鈍化すると見ています。そのような環境下、FRBが利上げに慎重な姿勢を示したことは市場の下支え要因になるとも考えられますが、引き続きリスクの取得には慎重な姿勢が求められると考えています。

### 今後の運用方針

運用戦略に関しては、ポートフォリオ全体の金利リスクを低位に抑えつつ、米ドル建ての投資適格債券を中心に信用力の高い銘柄への選別投資を通じて信用リスクを抑制することにより、投資元本の保全と流動性の維持に配慮しながら、着実な収益を目指す方針です。

純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図ります。

## ▶ ピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY（JPY）

### 運用環境の見通し

世界経済の成長は、2019年も引き続き成長が続くものの、そのペースは減速し、2018年を下回ると予想しています。各国中央銀行による拙速な金融引き締めリスクの後退や中国による景気刺激策は世界経済の安定化に資すると見ていますが、景気サイクルが転換点に近づく中で金融政策と財政政策のバランス変化、貿易摩擦の激化、政治的ポピュリズムの台頭といったリスクが市場の価格の変動性を高める可能性に留意する必要があり、投資の元本保全を意識しつつ、より魅力的な水準のインカムを獲得することが重要なテーマになると考えます。

### 今後の運用方針

米国の政策金利の引き上げは当面停止される見通しであり、世界中の債券に分散投資を行いながら相対的に高い利回り収入を積み上げていく局面にあると考えています。引き続き、質の良い高利回り資産を中心とする「攻め」の資産と、リスクオフ時にポートフォリオを安定化させる「守り」の資産のバランスを重視し、「良質なインカム」を着実に積み上げることで、元本の保全と安定的なインカムの提供を目指します。

純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図ります。

# お知らせ

## ▶ 約款変更

- ・該当事項はありません。

## ▶ その他

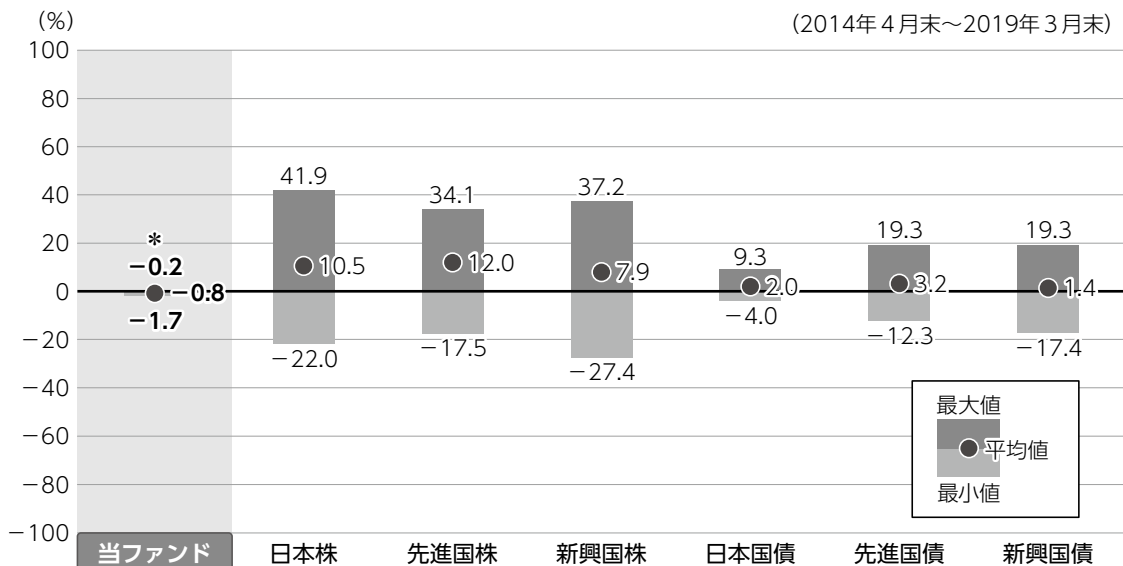
- ・目論見書の投資リスクのその他の留意点に以下の記載を追加します。  
「投資対象ファンドにおいては、信用リスク管理上、政府機関の発行または保証する有価証券、およびそれらと同等と判断した銘柄（※）について、同一発行体でファンドの純資産総額の10%を超えて保有する場合があります。  
（※）には、米国の連邦住宅抵当公庫（ファニーメイ：F N M A）および連邦住宅抵当貸付公社（フレディ・マック：F H L M C）が発行または保証するモーゲージ証券等が該当します。」
- ・2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。））の税率が適用されます。

\*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。  
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) にて開示を行っている場合があります。

# 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2027年4月20日まで (2017年7月31日設定)
運用方針	<p>円建ての外国投資信託であるピムコ ショートターム ストラテジー - クラスJ (JPY) およびピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (JPY) の投資信託証券への投資を通じて、主として世界 (新興国を含みます。) の幅広い種類の公社債等およびそれらの派生商品等に投資を行います。</p> <p>投資元本の保全と流動性の維持に配慮しつつ利子収益の確保をめざすピムコ ショートターム ストラテジー - クラスJ (JPY)、および利子収益の確保と長期的な値上がり益の獲得をめざすピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (JPY) の投資信託証券への投資配分は、それぞれ70%、30%を基本とします。</p> <p>投資信託証券への投資は高位を維持することを基本とします。</p> <p>投資信託証券への運用の指図に関する権限は、ピムコジャパンリミテッドに委託します。</p> <p>原則として、投資する外国投資信託においては、当該外国投資信託の純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減をはかります。</p>
主要投資対象	<p>■当ファンド</p> <p>ピムコ ショートターム ストラテジー - クラスJ (JPY) およびピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (JPY) の投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>■ピムコ ショートターム ストラテジー - クラスJ (JPY)</p> <p>世界の幅広い種類の公社債等およびそれらの派生商品等を主要投資対象とします。</p> <p>■ピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (JPY)</p> <p>ピムコ バミューダ インカム ファンド (M) への投資を通じて、世界の幅広い種類の公社債等およびそれらの派生商品等を主要投資対象とします。</p>
運用方法	世界の幅広い種類の公社債等を実質的な主要投資対象とし、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざします。
分配方針	<p>経費等控除後の配当等収益および売買益 (評価益を含みます。) 等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)</p> </div>

## ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2014年4月から2019年3月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

\*ファンドについては2018年7月～2019年3月の同様の騰落率を表示したものです。

### 各資産クラスの指数

日本株	TOPIX (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

# 当該投資信託のデータ

2019年4月22日現在

## ▶ 当該投資信託の組入資産の内容

### 組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

ファンド名	第2期末 2019年4月22日
ピムコ ショートターム ストラテジー - クラスJ (JPY)	68.8%
ピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (JPY)	30.2%

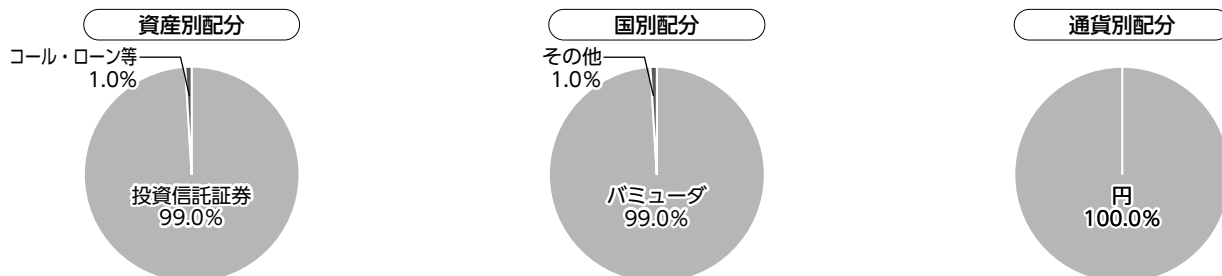
※比率は当ファンドの純資産総額に対する各投資信託証券の評価額の割合です。

### 純資産等

項目	第2期末 2019年4月22日
純資産総額 (円)	391,549,711
受益権口数 (口)	391,831,153
1万口当たり基準価額 (円)	9,993

※当期中において追加設定元本は367,113,585円  
同解約元本は 1,000,000円です。

### 種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

※【国別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行国、発行通貨を表示しています。

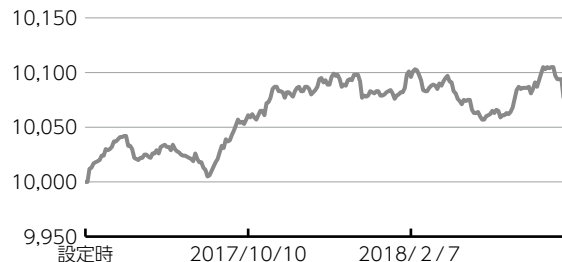
2018年5月31日現在

組入上位ファンドの概要

▶ ピムコ ショートターム ストラテジー - クラスJ (JPY)

基準価額の推移

設定時～2018年5月31日  
(円)



基準価額以外の開示情報につきましては、各通貨毎のクラス分けされたものがないため、「ピムコ ショートターム ストラテジー」ベースで表示しています。

▶ ピムコ ショートターム ストラテジー

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：454銘柄)

	銘柄	国	業種／種別	比率(%)
1	CENTRAL NIPPON EXPRESSWY	日本	その他債券	1.9
2	MITSUBISHI UFJ FIN GRP SR UNSEC	日本	投資適格社債	1.1
3	SLMA 2004-3A A6B 3MLIB+55BP	アメリカ	その他証券化商品	1.1
4	BARCLAYS PLC	イギリス	投資適格社債	1.1
5	DAIMLER FINANCE NA LLC SR UNSEC 144A	ドイツ	投資適格社債	1.0
6	EBAY INC SR UNSEC	アメリカ	投資適格社債	1.0
7	FORD MOTOR CREDIT CO LLC SR UNSEC	アメリカ	投資適格社債	1.0
8	ORIX CORP SR UNSEC	日本	投資適格社債	0.9
9	ROYAL BK SCOTLND GRP PLC SRUNSEC	イギリス	投資適格社債	0.9
10	NTT FINANCE CORP SR UNSEC FRN	日本	投資適格社債	0.8

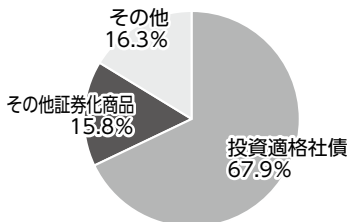
※比率はマスターファンドの純資産総額に対する割合です。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

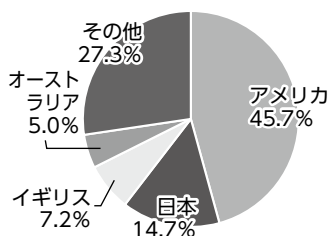


## 種別構成等

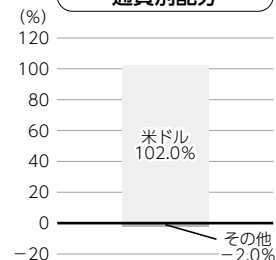
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注) 比率はマスターファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※なお、ピムコ ショートターム ストラテジー - クラスJ (JPY) において、保有資産に対し純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行っており、実質的な通貨別比率は円100.0%です。

## 1万口当たりの費用明細

2017年6月14日～2018年5月31日

1万口当たりの費用明細に相当する情報がないため、開示できません。

ファンドが投資対象とする投資信託証券では運用管理費用 (信託報酬) はありません。

2018年10月31日現在

組入上位ファンドの概要

▶ ピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (JPY)

基準価額の推移

2017年10月31日～2018年10月31日



基準価額以外の開示情報につきましては、各通貨毎のクラス分けされたものがないため、「ピムコ バミューダ インカム ファンド (M)」ベースで表示しています。

▶ ピムコ バミューダ インカム ファンド (M)

組入上位10銘柄

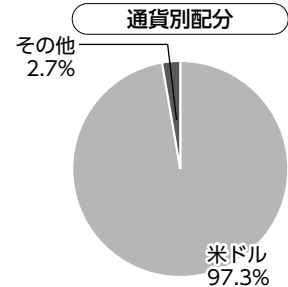
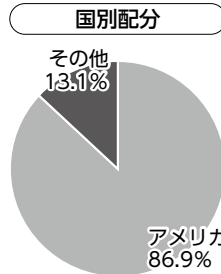
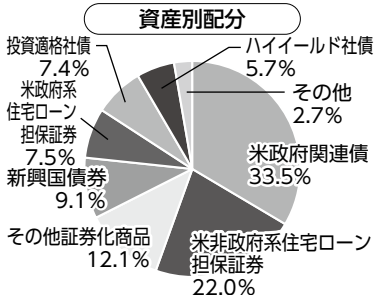
(組入銘柄数：2,177銘柄)

	銘柄	国	業種/種別	比率(%)
1	FNMA TBA 3.5% DEC 30YR	アメリカ	米政府系住宅ローン担保証券	1.6
2	FNMA TBA 4.0% DEC 30YR	アメリカ	米政府系住宅ローン担保証券	1.4
3	U S TREASURY NOTE	アメリカ	米政府関連債	1.3
4	LMAT 2017-RPL1 A 1MLIB+175BP 144A	アメリカ	米非政府系住宅ローン担保証券	1.3
5	CSMC 2018-SP2 PT 144A	アメリカ	米非政府系住宅ローン担保証券	1.2
6	FNMA TBA 4.0% JAN 30YR	アメリカ	米政府系住宅ローン担保証券	1.1
7	FNMA TBA 3.5% JAN 30YR	アメリカ	米政府系住宅ローン担保証券	0.9
8	U S TREASURY NOTE	アメリカ	米政府関連債	0.9
9	U S TREASURY NOTE	アメリカ	米政府関連債	0.7
10	FNMA TBA 3.0% DEC 30YR	アメリカ	米政府系住宅ローン担保証券	0.7

※比率はマスターファンドの純資産総額に対する割合です。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

## 種別構成等



※比率はマスターファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

(注) ピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (JPY) において、保有資産に対し純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行っており、実質的な通貨別比率は円100.0%です。

## 1万口当たりの費用明細

2017年11月1日～2018年10月31日

1万口当たりの費用明細に相当する情報がないため、開示できません。

ファンドが投資対象とする投資信託証券では運用管理費用（信託報酬）はありません。

# 指数に関して

## ▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

### ● TOPIX（配当込み）

TOPIX（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数（TOPIX）に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIX（配当込み）に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の停止またはTOPIX（配当込み）の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

### ● MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### ● MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### ● NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

### ● FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

### ● JPMオルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPMオルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。